

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 3 月 17 日作成)

小委員会名	農山漁村文化景観小委員会	主 査 名：神吉紀世子 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会	委員長名：岡田知子
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>文化的景観保全について地域づくりの立場から研究・保全活動支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的な情報発信の手法の検討とその初動的取組みを行う。研究集会を活用して、海外事例の実務担当者との議論の場を設ける。フィールドスクールの開催シリーズ化を継続し同時に海外事例地での開催準備を行う。(2014) ・ 海外事例地でのフィールドスクール試行的開催を通じ、文化的景観保全に関する国際的で継続的な議論の機会の運営手法を検討する。(2015) ・ フィールドスクール開催を継続しつつ委員の再構成および公募を行う。HP 等による情報発信の充実、継続的な議論の機会の実装に取り組む。(2016) ・ 国際的で継続的な議論の機会を活用したかたちで、国内での研究集会およびフィールドスクール連動企画を開催する。(2017) 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：神吉紀世子 (京都大学) 幹事：小浦久子 (大阪大学)、工藤和美 (明石工業高等専門学校) 委員：川口友子 (農村開発企画委員会)、宮川智子 (和歌山大学)、福島綾子 (九州大学)、熊野稔 (徳山工業高等専門学校)、植田暁 (景観ネットワーク)、月館敏栄 (八戸工業大学)、不破正仁 (神戸芸術工科大学)、山口尚之 (タステンアーキテクト)、西嶋啓一郎 (第一工業大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	115,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/nouson/s0/ https://www.facebook.com/Cultural.Landscape.AIJSubCom</p>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む) (ほかに、委員数名での打合せ 4 回)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	<p>1. PD：文化的景観のまもりかた ー 営みの真实性はどのように保たれるのか 『農村計画部門パネルディスカッション資料：同上』 参加者数 93 名</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 大会 PD は公式計測では 93 人であるが、実際には会場定員を超過し、臨時の椅子席の増設数・立ち見参加者数を関さんして、少なくとも 120 人以上を達成している。資料集も事務局の指示どおりの冊数を印刷したところ、即日短時間完売となり、元本委員会委員長はじめ直後から追加入手希望の連絡をもらうなど、混乱も多かった。が、多くの会員に国際的議論を紹介できる機会として一定の成功を収めたと自己評価している。</p> <p>2. PD 開催に労力をさいたこともあり、2014 年度内のフィールドスクール開催の準備は間に合わなかった。</p> <p>3. 国内外各地の文化的景観保全にとりくむ事例地への協力は、委員および委員複数名での訪問や講演等で行っており、年度内にも、遠野、泉佐野、中標津等で小委員会委員として伺った。</p>

委員会活動の問題点
・課題

1. 大会研究集会がどれだけ盛況であっても、公式記録には現れないため、委員の士気が大幅に低下した。各事例地への協力など、委員は全員、学術上の委員会成果をいかした活動を積極的に行っているため、小委員会会合の開催手続き等の煩雑で（東京以外の開催では交通費もでないなど、当事者としても公式の開催手続きをとる理由もない）正直に言って手がでない。実質的に学術成果をあげるためには小委員会にはより細かい動き方が必須にも関わらず、そうした労力に見合う配慮がないことが課題である。
2. Facebook の立ち上げと情報配信を開始、高い効果的な運用を検討する。
3. 国際交流を主眼にしていることもあり活動資金の確保が重要となる。ただし、もとより学会の委員会経費には期待していない。2014 年度も学会の経費はほとんど用いていない。